

デジタル Digital エッセイ

「岩手じゃクマがバスを待つ」

坂口 裕靖

昨年に続き、今年も梅雨時に各地で酷い水害被害が出てしまった。温暖化のせいなのかどうかはよくわからないが、なんかこの季節というものの想定すべき形がゆっくりと変化しているようにも感じられる。日本も乾季・雨季の二季になってしまうのだろうか。

水害で土砂が家々に入り込んでしまうと、まずそれを取り出すだけでも大変な手間がかかる。それだけではなく、強大な圧力で家屋を破壊して流れていくのがほとんどだから、当然家屋も修理しなければならない。道路すらまともに通れない状況で作業は難航するだろう。我が身に降り掛かったらどうなるだろう、と思いながらテレビの向こうを見つめる日々である。

今、かるく「修理」という言葉を使ったが、これには注意が必要だ。修理をするの

はそこに住み続ける前提があるからで、他の場所へ行ってしまふのであれば、修理する必要はない。修理してでも住み続けなければいけない理由があるか、修理したほうが移住するより何らかのコストが安価（具体的に出費の問題かもしれないし、人間関係再構築にかかる社会コストかも知れない）である場合に限り、修理することになるだろう。土砂に覆い尽くされて土木からやり直さなければならないような状況に陥ったとき、それでも修理するという強いモチベーションがどこから出てくるかが問題だ。

一次産業に従事しており、基本的にその土地をベースとして収入を得ている場合であれば、修理は当然のものとして行われることになるだろう。その土地の環境が大事なことから、そこから離れるといことは生き方をかえるということであり、コストは

非常に高価なものとなる。コミュニティの成員、大半がそういう方々であれば、修理しないという選択自体存在しないかも知れない。結果としてコミュニティは維持されるだろうし、全体として再建へ向かい、再び訪れるかもしれない、次の災害を待ち受けることになる。

一方で、収入源がその土地に深く結びついていない場合、土木からやり直すコストより、移住するコストの方が安価になる場合が多いのではないだろうか。若年世帯であれば、次に同規模の災害が発生するまでの数十年あることを想定すると、修理は充分合理的な選択だろう。修理により人間関係の再構築コストを安価に抑えることができるし、プレゼンスを強化することもできる。しかし、そもそも勤め人であって、会社へ行ければいいのであれば、その場所

ワンポイント パスワード

キットカット Big リトル 岩泉ヨーグルトを目指して作った ヨーグルト味 35g

今年も岩泉に行ってきました。昨年の傷跡はまだまだ残っていて、橋に丸太がぶっ刺さってたり、川の近くでは一階がおそらく出水によりぶち抜かれてしまっ、誰も住んでなさそうな民家などが点々と存在していたりなどがあったため、まるっきり元通りということではなさそうでした。それでも崩落した道路が通行できるようになっていたり、町内の店舗には客足が途絶えなかったりと、徐々に以前の姿を取り戻しつつあるようです。

で、龍泉洞温泉ホテルのお土産売り場に行ってみると、以前は売っていた岩泉ヨーグルトがありませんでした。ヨーグルトを作っていた岩泉乳業は昨年の台風 10 号被害により甚大な被害を受け、ヨーグルトを作れない状態になっていたわけです。結果として、冷蔵ケースから飲むヨーグルトなどが消えていました。で、そのかわりに売ってたのがキットカット。2012 年以降、三陸鉄道と一緒に復興支援をしてくれているようです。その縁なのか、キットカットの岩泉ヨーグルト的バージョンが発売されてました

ので、お土産として箱買いしてきました。今年中には岩泉ヨーグルトが復活するようなので、来年は風呂上がりに味わえるでしょう。この他台風 10 号の写真集も売ってました。例の長靴忘れておんぶおばけが出現した道の駅では、まだ串焼き肉のお店が復活しておらず、レジャーテントの下でコロッケとかメンチカツとかを販売をされていました。道の駅の裏側はまだまだ整備が終わっておらず... とりあえず合掌して帰ってきました。ちなみに小本の痛車はなんか表から見えないところに移動してました。何かあったのかしら。気になります。

ちなみに田老の方でも、津波で工場から店舗から流された田中菓子舗が国道沿いに新しい店舗を作ったり、町に一軒しかないコンビニがプレハブから本建築に変わっていたり、地元の蕎麦屋さんが空き地に蕎麦を植えて地産地消してたりと進展が見られました。

https://nestle.jp/brand/kit/kittozutto/biglittle_yogurt/

に固執する理由はまったくない。その場合、同じ通勤距離の別の場所に移るというのは充分合理的判断となる。他方老年世帯の場合、修理したとして、はたして何年それが使えるか、という問題が出てくる。どうせ修理の間は別の場所で過ごすしなければならないのだから、だったらいっそ残りの年月を別の場所に移ってしまった方が安価である、という判断が出てくるのも無理はない。かくして、収入をその場所に依存していない世帯にとって、修理することは選択肢の一つでしか無いし、しかも時間がかかるというデメリットを内包している。

ここにもう一つ問題があり、そもそも修理できるためには、修理できるヒトがい無いといけ無い。今までコミュニティが存続してきたことを考えると、統計的に日々発生する破損に対応できる程度のリソースはあるのだろう。しかし、コミュニティの存続自体が脅かされるような状況の場合、それに対応できるほどのリソースはもはや存在していないかもしれない。その場合コミュニティの外部から調達することになり、修理のコストも時間もかさむことになる。修理に対してますます腰が引けてくるのではなからうか。

以上はコミュニティの会員側だが、これとは別に行政機関として役所というものがある。役所はあきらかにその場所に紐付いている組織体であって、その場所の存続と役所の存続は表裏一体である。そのため、災害が発生すると、何よりもまず復旧を第一目的として動くことになる。しかしながら、役所を存在たらしめているのはその場所のコミュニティであり、コミュニティの会員がその場所から離れる選択をしてしまったら、そもそも復旧にどれだけの意味があるかはたいへん悩ましい。もちろん出ていくヒトがあるなら入ってくるヒトもあり●うる●のだから、完全にムダということはないだろう。修理を選択しないことによりコミュニティは維持できないかもしれないが、復旧した環境に流入してくる人口により、自治体自体は維持できるかもしれない。まあ、復旧前の人口が減少傾向であっ


たのなら、復旧を越えた改善とかテコ入れとかしない限り、人口流入の見込みはないと考えるのが普通じゃなからうか。今まで日本の地方が維持されて来たのは、主として一次産業に従事するコミュニティが機能することができていたからではないだろうか。その環境が収入源だから、守る方向に力を入れる。結果コミュニティが維持され、環境が整備され、好循環になるわけだ。そうすると、その場所から離れるコストより、修理するコストの方がコミュニティとして安価となる。隣の畑が荒れてしまうと自分の畑に影響が出るわけだから、それを排除、すなわち整備する圧力が働くわけだ。そうしてある程度の平衡条件が保たれてきたのだろう。


だが、ここへ来てなんかバランスが狂ってしまった。老年世帯が増える一方となり、人口も減って、そもそも買い物できる店舗すら維持できないほど疲弊してしまったコミュニティに壊滅的災害が発生した場合、これに立ち向かえるリソースは役所以外のどこにも存在しないだろう。とは言っても役所そのものにリソースがあるわけではないから、どこから調達してくることになる。当然毎年のメンテナンスに比べたら莫大なコストが必要となるわけだから、どこからお金も調達してこないといけ無い。そのお金は外部から来るわけだが、それを支払う外部の人間はその土地から恵みを受けていないのだから、高いだの贅沢だの、そりゃ文句言うわな。うまく行っても原状復帰、悪くなると何かを諦めざるをえなくなる。すなわち、完全復旧は不可能であって、なんらかの劣化を伴わざるを得ない。そうして頑張って復旧したとして、コミュニティの会員が戻ってこないのであれば、本末転倒だろう。どの

みち消滅するのであれば、そもそも復旧に力を入れるべきかどうか、大変むずかしい判断が必要になってくる。そこを冷静に正しく判断できるヒトなどいるだろうか？おそくないだろうか、様々な混乱が沸き起こることになるだろう。でまあ、これと同じ構図はマンションの立替とかでも起こってるだろう。都市部の需要が高い立地であれば、新しいヒトが入ってくるかもしれない。その入ってくるヒトたちはどこから移って来たヒトたちであって、元いたコミュニティは出ていった分だけ衰退することになる。これが外側へ外側へと繰り返され、地方が疲弊していくわけだ。カリフォルニアにいた時、なんでゴーストタウンとかできるんだろうかと思ってた。でも、こうして考えてみると、そもそも「ここにいる理由」がないのなら、わざわざ修理などしないのも当たり前だ。そもそもそこに居なかった人々が作った町なのだから、やってきた理由である金鉱が枯れたなら、霧散するのは当たり前だ。

ICTは時間や場所の制約を緩和する方向に働くため、特定の場所を保護する方向とは真逆を向いている。人手が絶えてしまった地方は徐々に森に還っていくことになる。蘇った森は自然を育む。今後クマとの戦いはますます激しくなっていくことだろ。

Hiroyasu Sakaguchi
(株) IMAGICA イメージワークス





HD TV, 3D TV and IP OVER SATELLITE ECO OPERATION

スマート・サテライト・ニュース・ギャザリング

<http://www.bizsat.jp>


ニッサン新エルグランド4WD
5名定員

1.2m径・自動捕捉アンテナ搭載
車高2.2m 以下 (地下駐車場可)

3.6 KVA NMG アイドリング運用
水圧エコ・ポール4m 搭載

強化サスペンション
国内 (100V) 海外 (240V) 対応

IPコントロール
ハイビジョン映像伝送
運転席からワンマンオペレーション



設計・製造・衛星通信のことなら
エーティコミュニケーションズ株式会社
TEL: 03-5772-9125

